

『共和国の美術』 吉田秀和賞受賞記念シンポジウム  
美術館・展覧会・美術史はなんのためにあるのか  
オンラインでの質問に対する回答

Q：竹久さんに質問です。アートをめぐってコミュニティを育んでいく試みについては、単に「コミュニティが生まれているから良い」ということにとどまらず、そのコミュニティのなかで何が実際に起こっているのかについて精緻な批評や考察をするための言説の枠組みを多様化させていくことが重要だと思います。今後、アートないしミュージアムとコミュニティについて考えるために、どのような言葉の在り方が求められているとお考えでしょうか。また、コミュニティのなかで行われているコミュニケーションの在り方について、ハラスメントのような例が典型的ですが、どのような権力の不均衡や規範が生まれてしまうのかについて、お考えはありますでしょうか。協働のプロジェクトの報告にはあたかも参加者それぞれが「対等に」「主体的な」「対話」を「自由に」しているかのように総括されてしまいますが、実際に現場をみとみると侵襲的なコミュニケーションの事例もみられます。こうした対話や協働の空間について、なにかお考えがもしありましたら教えてください。

A：

コミュニティ連携型の取組みといえば作品としてモノ化されるものよりもむしろ無形のプロジェクトとして実施されることが多いと思いますが、それに対する評価や批評が十分にされていない、と私自身つねに感じています。そこには、いわゆる芸術を生業としているわけでない人びとが関わる時に、あるいは社会的・地域的課題を扱っているプロジェクトにおいて、批評が不在になり、芸術の観点から評価がされなくなるという傾向があると感じます。つまり、ご指摘のとおり、コミュニティ参加型の作品やコミュニティ連携型の取組みに対する適切な批評言語が成立していないのかもしれませんが。美術館でコミュニティ連携を推進するにおいて、あいにく必ずしも、その必要性・重要性が館内に一貫して共有されているとは言いきれず、どのように評価できるか、というのは私自身が抱える課題でもあります。今後、コミュニティ連携・参加型のプロジェクトに対する適切な言語はますます必要になると思います。

後半の質問については、コミュニティ内の不均衡なコミュニケーションについては、具体的な事例を共有せずにお答えするのは難しいです。ただ、私自身が携わる場合においては、対話や協働の空間は、基本的に「出入り自由」であることをベースに、美術館側を含めそれぞれが他の参加者の声に耳を傾けること、その人なりの参加の仕方を尊重することを心掛けています。

Q:「展覧会が美術史をつくっていく」というお話は大変納得するところでした。一方で NFT 作品などに対して美術館が取れるスタンスとして考えるものはありますか？やはりマテリアルの作品を扱う場所としてのみ美術館を考えられますか？

A:

➤ 「収集」ではなく「展示」という観点から言えば、NFT を取り扱う可能性はほかの表現形態の芸術と同様・同等にあると考えます。

美術館は歴史的には物質的な作品を取り扱ってきましたが、現在は映像作品や映像や音声を組み合わせた非物質的なマルチメディアの表現の取扱いも（とくに現代美術を扱うミュージアムで）増えています。さらにいえば、「モノ」でなく「コト」であるアートプロジェクトという無形かつ展示することを前提としていない表現や取組みも、少数ながら扱う館もあります。美術館の扱う作品の非物質化は、その傾向は増えることはあれ、減ることはないと思います。

➤ NFT についてはすでに展示をしたり、地元作家からの寄贈話のある公立館もあるようですが、まずは先進的な試みをされている私立館の動向を見守りたいと個人的には考えております。

Q:美術館の評価の基準の一つとして来館者数があるかと思うのですが、今後來館者数だけでなくどのような価値感を美術館・展覧会は見出していけばよろしいとお考えでしょうか。

A:

➤ それぞれの美術館のミッションに即しながら、地域にどのように貢献できるか、つまり、地域への貢献という役割や価値が求められていると思います。

➤ これは館の規模や地域、運営母体（直営、指定管理など）によってもかなりケースバイケースで、お答えするのはかなり難しいです。ただ、来館者数はひとつの指標にすぎません（運営者＝自治体にとってはわかりやすい数値ですが）。ポストコロナ禍の時代、昭和教養主義世代が高齢化で美術館博物館にいらっしやらなくなった時代に、大都市圏の巨大美術館（東京都美術館や国立新美術館等）以外は概して観客数を減じているのではないのでしょうか。昭和期に比べ圧倒的に選択肢もあるし、人口も減じているなか、どうするかはどの館も真剣に考えているところです。地域との連携、学校教育との連携、展覧会やイベントの質的向上、入場料収入以外からの収益確保（魅力的なグッズの開発）などでしょうか。

本館も悩みのさなかです。皆さんとご一緒に考えていきたいところです。